

2010 政経A O英語 解答

川田拓矢 文責

【全訳】

次の文章を読んで下記の問いに答えよ。

イギリス人の市民特権は現在の労働党内閣の下で痛手をこうむっているが、ほとんどの人びとが大して気にしていないようである。自由と、民主主義と、世界中で模範とされてきた議会制度がイギリスで誕生したことについて、我々は昔から大いに語り合う伝統があるにもかかわらず、苦勞して手に入れたその特権に対して現代のイギリス人がほとんどまじめな関心を示さない。そのことに、自由主義者たちは相変わらず遺憾の意を表明している。昨年六月、英国首相であるゴードン・ブラウンがこの問題について演説をしていたときに、ある下院議員が彼の演説の最中に眠りこけていたことからして、そういうかなり否定的な思潮が確認されたように思われる。

とはいえ、市民的特権というものは、今日よくニュースの種になるのである。次期政権の秘蔵っ子と目されていた保守党の内相デイヴィッド・デイヴィスの思いがけない早期辞職のあとで、ブラウン氏の演説が行なわれた。デイヴィス氏は、英国下院が「42日間までは訴追の申し立てなくテロ容疑者が収監されることを認める」と票決したあとで下院を辞した。（その法案は法制化される以前に上院へ送られなければならない、しかも上院でかなりの反対に遇うことはまず確実であろう。）そういう国会の措置に対して、デイヴィス氏は、政府はたえず増大する自由の制限と国家による際限のない日常生活への干渉とに主役を務めているのだと非難した。その非難の結果、故郷ヨークシャー州の選挙区における地方選挙の際には、労働党の政策と、過保護で国家から自立できない州一般に注目が集まるだろうと彼は期待している。

政府に対する非難のリストは長くて悩ましいものである。42日間の判決前勾

留案（しかもそれ以前には 90 日間容疑者を収監する案が挫折していたのだが）に加えて、ひそかにアメリカと協力してテロ容疑者を非公開の海外刑務所へ送りつけたという理由で政府は非難されている。そういう措置は新たな恥ずべき行動を生み出している。たとえば、批評家たちが言うには、テロを賞讃し宗教的な憎しみを助長することが言論の自由を脅かす、といったことである。1998 年に施行された反社会的行動に違反する人びとは、それ自体違法ではない罪で投獄されることがある（たとえば町の禁区内に立ち入るとか、ある特定の人に話しかけるなどといったことである）。2005 年に、「二重危険」——同一犯罪についてある人間を法廷で二度裁くこと——の禁止令が、いくつかの重大犯罪に対して撤廃された。政府は陪審員による裁判の機会を縮小しようとしている。

新たな破廉恥行為とともに、それを発見する新たな方法が生まれている。公的・私的に所有される何百万もの有線テレビカメラ（だれにもその数は正確にわからない）が、市街を監視している。最新の導入物は、自動操縦の（軍事モデルから改造された）ミニチュア飛行機であり、それは紛争地点の上で浮留して映像を地上の警察に送ることができる。

コンピューター化された情報の莫大な集積もポピュラーなものとなってきている。イギリスは、6000 万人の市民のうち 400 万人以上の記録をはじめとする、世界でも最大規模の警察管理 DNA データベースを持っており（その中にはイギリスの黒人の 3 分の 1 が含まれている）。逮捕されるすべての人間の記録も保管されている。ということは、そのシステムに登録されている多くの人びとは、実際は一度も罪に問われたことがないということになる。政府によるアイデンティティカード計画は、国内のすべての人間の指紋と人物詳細を記録することを狙いに行っている。

また別の巨大データベースは、犯罪撲滅や安全の確保ではなく、統治上の利便という理由で正当化されている。そういったものの一つが、国民保健サービス制度に所属するすべての患者の記録を中央に集中させる計画である。ほかには、社会サービスによって国中のすべての子供を監視するという計画もある。その計画には、親がどのように子供に金を使うか、毎日何人前の果物や野菜を子供に食べさせるか、といったものまで含まれている。

ブラウン氏は、恐ろしい新たな脅威——テロ、麻薬売買、さらに（じつに驚く

べきことだが) 戦利支払い金の不法請求——を放逐するためには、新しい権力が必要であると主張している。演説の中で彼は、権威主義に対する批判を徹底して排し、新たな国家権力が実際、自由に対する脅威ではなく、その保証人となるのだと述べた。彼は、危険——保安隊が追跡している 2000 人のテロ容疑者——と、利点——以前に逮捕されたのち釈放されたり告発を解かれたりしたときに保存された DNA の証拠のおかげで 2001 年以来犯罪現場のそれと一致した 8000 人の容疑者——について詳しく説明した。彼は、議会は 42 日間勾留の乱用は防ぐつもりであるという公約を繰り返し述べた。労働党政府は他のさまざまな法案も可決した。たとえば、1998 年の『人権法』、2000 年の『情報の自由法』、『同性愛者および他のグループの権利を保証するための修正法』といったものである。

こういった政府の鼓舞は、市民権について不安を抱いている人びとに感銘を与えるものではない。彼らは、いったん制限的な新法が機能すれば、その用途はどんどん敷衍されていくだろうと主張する。地方評議会が、微罪を犯したと目される人びと(たとえば禁煙令を無視したり、裏口入学をしようとしたりする人びと)を調べるために、重要犯罪者に対して用いるはずであった監視力を利用する事態が出てきている。

さらに、機密に属する個人データが安全に保存されるという公約は、とりわけ近年において政府の機密文書が公的な場所で失われている数を考えると、かなり説得力に欠けるものである。ブラウン氏は二年前ひどくきまりの悪い思いをしたが、それというのも、子供の特典に関する 250 万におよぶ記録を収めた CD を紛失したと税務署が報告したからだ。ごく最近、テロに関するトップシークレットの書類がある列車の中で発見されたあと、ある役人が休職処分を受けた。同じ日、別の書類が——このときは財政上の不法行為に関するものであったが——別の列車で見つかった。その数日後、在る閣僚の事務所から盗まれたノートパソコンに、資料保護規定に違反する機密文書が記憶されていたかもしれないということが明らかとなった。

しかし、市民的自由を不安に思うイギリス人市民グループのほうが、頭の固い首相や不注意な役人よりも重大な問題を抱えているのだ。ベンジャミン・フランクリンの有名な忠告があるにもかかわらず、彼らは喜んでささやかな安全性と引き換えにささやかな自由を売り渡しているようだ。42 日間票決以前の調査は一

貫して、庶民の意見が好意的であることを示していた。ごく最近の経済誌の調査によると、自由を支持する人びとがひどく恐れている政府の多くの政策に対して、庶民の支持が十分集まっていることがわかる（表参照）。女性のほうが男性よりも権威を受け入れる傾向があり、労働党支持者のほうが他の主要政党支持者よりも市民的特権の侵害にあたって緊張感がなく、富裕な人びとのほうが貧しい人びとよりも不安を抱えている。回答者の半数がほとんどの質問に対して同一傾向の回答を出した。マーケットリサーチ社である『ユーゴブ』の社長ピーター・ケルナーが言うには、半数というのはかなり高い数字だということだ。

調査の示すところによると、論理的に考えた場合、人びとは市民特権という概念を守ることを強く主張するが、特定の状況に対峙すると、わけても具体的な安全利得が保証された場合には（たとえ統治上の利益が自由に関する不安を凌いでいても）、あまりそれに拘泥しなくなるようである。

個人企業に対する信頼は、政府に対するそれよりもはるかに弱い。——これは奇妙なことである。なぜなら、全消費者の半数以上が、データ追跡システムのスーパーマーケットの会員カード組織に自発的に登録しているからだ。

デイヴィス氏の支持者たちは、回答者の 57%が彼の運動を支持すると答えたデイリーメール紙の調査をこれ見よがしに取り上げる。現代の調査結果というものの性質を考えると、その原因を説明することは困難である。考えられる説明としては、政府に敢然と立ち向かう姿勢を示すどんな政治家でも不満な有権者を喜ばせるものだ、というのが考えられるが、それが真実にかかなり近いものであろう。

出展： The Economist (June 21, 2008)

『メアリー・ポピンズとマグナカルタ； 市民特権』

【解答】

1. (i) (5点×4)

(A) 人びとは政府よりも私企業を信頼する。なぜなら多くの政府の機密文書が最近公の場で紛失しているからだ。

答え F

(B) 隠然たる勢力を持っていた前保守党内務大臣デイヴィッド・デイヴィスに対する支持は、多くの人びとが自分たちの市民特権を不安に思いはじめたことを示している、と筆者は述べている。

答え F

(C) 市民特権を不安に思う人びとは、政府の新しい国家権力は自由に対する脅威ではなく、それを保証するものであるということを受け入れる。

答え T

(D) イギリスのほとんどの人びとは、自由とかプライバシーという概念は非常に重要であると考えているけれども、無事や安全のためにいくばくかの自由を犠牲にする気であるようだ。

答え T

※ 単に「読み」を試される易問。毎年1番の得点獲得は大きいので絶対はずさないようにしてほしい。

(ii) (10点)

新政府のこれらの権力が有効に機能することを示すために、ゴードン・ブラウン氏はどんな直接的証拠を挙げているか。

与えられた欄に英語で解答を書け。

He said that, thanks to DNA evidence which was retained when terrorist suspects were released, uncharged, after a previous arrest, they could identify 8,000 suspects who had been matched with crime scene since 2001.

- ※ 本文の一部を拝借し、多少構文や時制など表現の一部に改変を加えた。英文にほんの少しでも自力で書いた部分があることを示すのが重要。もちろんいつも言っているとおり、簡単な英語で！ ここもやはり得点のしどころ。

2. (20点)

紙上調査によると、57%の回答者がデイヴィス氏を支持していたことがわかる。著者にとってなぜこの結果を説明するのが難しいのか。

与えられた欄に100字以内の日本語で解答を書け。

公権力が具体的な利益を保証すると国民は市民特権の侵害を忘れるという信用ならない調査結果に加えて、その公権力に勇敢に立ち向かう政治家には利益を度外視して声援を送る矛盾した行為を怪しんでいるから。

- ※ 現代の調査結果から考えて、市民の動向が矛盾に満ちていることを指摘すればよい。やはり本文の一部を活かし(読み込んでいることを示すため)自分の表現もさりげなく加えること。

3. (20点)

下記の文章は、労働党のゴードン・ブラウンによって導入された政策を支持する人びとがしばしば口にする言葉である。

「隠すものが何もないなら、恐れるものは何もない」

この言葉の意味を自分の言葉で説明せよ。

どの程度この言葉に賛同するか？ 自分の見解を支持するためにどんな主張ができるか？

与えられた空欄に英語で書け。

【日本語】

「生活を隅々まで監視されて秘密なしで暮らしているほうが、たとえ自由や特権を多少削られても、安全無事にすごせる」

まったく賛同できない。生活の個人的な都合や不都合は、危険を冒しながらも個人で律して、個人で解決すべきものである。監視のよほどの安逸な暮らしなどおよそ家畜同然のものである。そもそも人類の歴史は個人の自由な生活権の獲得の歴史であり、そこには必然的に、他者の都合とは合致し得ない隠すべき人生の余白が付随してくる。それこそ私たちの生活を潤わせる「自由」の本質である、と私は考える。

【英語】

“To live under watch from corner to corner without privacy, even if freedom or liberties are cut out to some degree, is to live in peace and quiet.”

I can't agree with this view. A person's convenience or inconvenience in life is to be taken care of and dealt with by him at any risk. Living a peaceful life under close guard is no better than that of

domestic animals. After all, history of humankind is one where he has acquired the right to live free, and in the process necessarily accompanied by margins of life to be hidden, which collide with others' convenience or inconvenience. That is, I think, the essence of "freedom" which enriches our life.

※ 難問。まったく手を出さなくてもいい。抽象思考ができないのは若さゆえである。せいぜい大学へ行ってから多読によって抽象能力をつけなさい。

4. (30点)

表 1 から 4 は、人びとがどんなふうに有線テレビカメラのことを思っているかを調査したインタビューの結果である。インタビューは 1994 年から 1996 年にかけて、グラスゴーの都心の街頭で行なわれた。そこには有線テレビカメラが 1994 年以来備え付けられていた。

回答者たちは、有線テレビに関して述べられた一連の考え方に賛成か不賛成かを問われた (表 1)。次に彼らは、5 台の有線テレビカメラは一人増やした警官よりも効果があると思うかどうか、考えるように求められた (表 2)。異なった集団に対する有線テレビカメラの容認度が表 3 にまとめられている。インタビューを受けた人びとに関する情報が表 4 である。

これらの表にもとづいて、なぜグラスゴーの人びとが有線テレビカメラの使用を支持したり、しなかったりするのかの理由を説明せよ。解答は 300 字以内の日本語で書け。表中のどの項目があなたの見解の基盤となっているかを明確に記せ (たとえば、1—1)。

CCTVを支持する人びとは（1—3、2—2）いずれも人間の事実認識力よりも機械のそれを信用している。犯罪の減少には役立たないとして不支持も表している（1—4、2—1）のは、犯罪社会への諦観の故だろう。安堵感を与える強さは人間にありと軍配を上げる（2—3）のは、彼らが根本的に機械に情緒的な安らぎを見出していないからである。また監視による市民特権に対する危機感
は弱いようである（1—5）。田舎出身の高年齢層（3—1、3）や女性（3—5）の支持率が高いのは、弱者である自己認識から安全性に対して敏感なせいであり、都市出身の若い男女（3—7、4—6）の支持率が高いのは現代文明に対する肯定的な姿勢のせいであると思われる。

（299字）

※ 考えにくく、表記もしにくい問題である。字数的に等位票は考察する必要はないが、監視と人権侵害は本論文の目玉なので、1—5で明示しておくのがよいだろう。データから収集できる情報をすべて書き込まないことが重要である。

【総括】

国家による市民の自由制限、およびそれに対する市民の反応に関する問題。羅列的な盛りだくさんの表記なので、著者の論旨をつかみにくい。おそらく、手取り足取りの国家体制を国民がありがたがる能天気を責め、国民皆ロボット化の危機を訴えたいのではなかろうか。今年も最後の二問が難問であった。例年どおり、40%～50%が合格ラインと思われる。